

## 第1回検討会における意見・要望への対応

分野	No.	意見・要望	対応	
栽培対象種	現行対象種	1	・ヒラメの放流で漁獲量が増大したことにより、単価が下がりがり買いやすくなった。	・栽培漁業対象種については、現行のヒラメ、アワビ、クロダイ、クルマエビの4種を基本に、今後も、沿岸市町や漁業団体の要望に応じて安定的に生産できるよう努めたい。 (→基本方針(案)1(1)(2)に反映)
		2	・H23,24年に滑川栽培漁業センターにヒラメの新施設を整備したことで、従来にも増して健康で活力のあるヒラメが安定して生産できるようになった。	
		3	・クルマエビは、放流効果が低いようだが、対象魚種としていくメリットがあるのか。	
		4	・クルマエビは、全国的に漁獲量が減少しており、その原因はわかっていない。今後、クルマエビの栽培漁業を推進するかどうかについては、漁業者の意見をふまえて検討してほしい。	
	新魚種	5	・技術開発中のキジハタ、アカムツについて、研究を早く進めていただきたい。	・キジハタ、アカムツについては、安定した種苗生産技術の開発や放流効果の検証等に取り組み、栽培漁業の早期事業化を推進したい。 ・特に、水産研究所に新たに整備したキジハタ、アカムツ種苗生産施設において、大量の稚魚を生産することにより、放流に適した時期や場所を検証する比較放流試験を実施し、事業化に向けた技術開発を加速させることとしている。 (→基本方針(案)1(3)に反映)
		6	・キジハタやアカムツの栽培漁業技術の開発を進めることは非常にありがたい。	
		7	・キジハタ、アカムツを栽培漁業対象種とすることは大歓迎で、是非推進してほしい。	
		8	・アカムツは獲れる場所が限られているので、放流は漁業者の協力などを得て、沖合で実施してはどうか。	
		9	・マダイを栽培漁業対象種としてはどうか。	
		10	・ハタハタを栽培漁業対象種としてはどうか。	
		11	・キジハタやアカムツといった高級魚だけでなく、アジなどの大衆魚も栽培漁業にチャレンジしてほしい。	
栽培環境	12	・海水温が以前より上がっているように思うが、放流時に水温差がないのか。	・種苗生産は、原則、地先の水深数メートルから取水した海水を使用しているため、飼育水温と放流地先の水温が大きく異なることはない。 ・なお、ヒラメについては、以前は地先水温が高く餌の少ない8月頃に放流を実施していたが、現在は、放流地先の水温が8月より低く餌の豊富な7月上旬ごろの放流に向け、加温による早期生産を進めており、より好適な時期に放流を実施している。 (→基本方針(案)2(3)に反映)	
	13	・海水温が変化した場合に対応して、幅広い魚種の種苗生産を検討してはどうか。		
環境影響	14	・放流魚の遺伝的多様性への配慮はできているか。	・ヒラメやクロダイなどの栽培漁業対象種や技術開発中であるキジハタやアカムツについては、地場の天然魚を親魚とすることにより、遺伝的多様性に配慮している。 (→基本方針(案)2(2)に反映)	
	15	・クロアワビの生息域に近縁種のエゾアワビを放流することは影響があるので、どうするかははっきりした方がよい。		
	16	・同種の魚を大量に放流することによる餌生物などの生態系のバランスへの配慮はできているか。		
氷見セの活用	(全体)	17	・つくり育てる漁業の拡充が重要と考える。現在の栽培漁業対象種の種苗放流を安定的に継続するため、老朽化した氷見栽培漁業センターの早期改修をお願いしたい。	・滑川と氷見の両栽培漁業センターについて、適切な役割分担のもと、最大限の活用を図るため、老朽化した氷見センターの改修整備を進めることとしたい。 (→基本方針(案)3(3)に反映)
		18	・漁業の担い手対策にもつながるので、栽培漁業の現場を子どもたちの教育に役立ててほしい。	
	(教育)	19	・栽培漁業センターは子どもたちや学校の先生が見学できるように整備するとともに、漁業者が海を大事にしていることをPRしてほしい。	
		20	・近年、子どもの魚離れと言われることもあるため、栽培漁業センターの施設を利用した教育はありがたい。	
		21	・環境に対しても子どもたちにどういった取組みができるかを提示してほしい。	
		22	・栽培漁業センターを教育に活用することは重要だが、防疫体制の構築が必要である。	
		23	・栽培漁業センターも単なる見学ではなく、育てるところから食卓に上るまでのストーリー性をもって説明することが重要であることから、説明(人、施設)をしっかりとる必要がある。	
		24	・来場者の対応に必要な人員の検討が必要である。	
(観光)	25	・氷見では、例えば氷見漁港のセリ見学やかまぼこの絵付け体験などが実施されているため、そうした地域の関連施設と連携し、関連施設をいくつか見学することで育てるところから食卓までの一連の流れを学べるのではないかと。	・産業観光のモデルコースへの組み込みなども視野に入れ、氷見市と連携して対応することとしたい。 (→基本方針(案)3(3)③に反映)	
	26	・氷見栽培漁業センターは非常に眺めが良いところである。		